

## 前回(5/28)の主な意見

## 【団体等の支援】

- 情報提供で事務局から紹介した社会教育団体以外にも、環境を守る子ども達の活動を行っているエコクラブなどの団体があり、社会教育委員会の協議と併せて、そうした団体を元気づけていくことができないか。

## 【環境の変化への対応】

- 親の世代から消費社会にどっぷりと浸かり、体験不足が蔓延化している現状に物足りなさを感じている若者がいる。
- 地域との繋がりが減り、各家庭内で完結してしまっている閉塞的な社会となっている。

## 【環境や条件の整備】

- 社会教育の悪い面として、すぐに事業化、プログラム化をしようとする傾向があるが、子ども達は**環境と条件さえ整え**てあげれば自然と学ぶことができる。
- 地域の中に、**誰でも参加しやすい環境をつくる**ことが大切。

## 【コーディネーター養成（ソーシャルワーカー等）】

- 地域を盛り上げていくには、社会教育を**コーディネート**できる人材が不可欠である。

## 【潜在的な課題】

- 本当に厳しい環境というのは『見えていない部分』にあるのではないか。
- ここ数年間の内に親世代の横の繋がりに対する意識の低下が感じられる。

## 【その他】

- それぞれの分野でいかにして厳しい環境にある子どもたちと向き合うのか、その環境をどのようにして整えていくのが重要。

地域全体で子どもたちの成長を支える社会教育のあり方について  
～「厳しい環境にある子どもたち」を社会教育の視点から支える方策～

子どもの居場所づくりに関連して社会教育として何ができるか、意見交換を参考に協議してください。